

女性研究者研究活動支援事業

(実施期間：平成 24～26 年度)

実施機関：武庫川女子大学（総括責任者：糸魚川 直祐）

プロジェクトの概要

(1) 支援室の体制と具体的な活動内容

本事業では、採用側の意識改革を目的とした啓発活動を行い、女性研究者数の増加を図り、「サロン」を設置し、女性研究者間の情報交換や世代間交流を通じたキャリア支援などを行う。また、関西 5 大学連携事業（現広域大学連携事業）等と連携し、「女性研究者スタートアップ支援」を行い、若手女性研究者の早期自立の推進を図る。さらに、本学のアメリカ分校を拠点として、協定校の女性研究者と若手女性研究者の交流を推進し、国際的に活躍できる女性研究者の育成を図るとともに、海外の女性研究者情報の収集を行う。

(2) 研究を支援する者の配置計画

同窓会と連携した「卒業生人材バンク」の構築や「代替講義制度」の制定など、女性研究者の出産・育児・介護などの支援に必要な環境整備を行う。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果 (システム改革)	実施体制	実施期間終了 後の取組の継続性・発展性
A	b	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

女性研究者のニーズに対応した多岐に渡る研究環境整備の取組、アメリカ分校との連携による女性研究者の国際交流支援など、特色ある取組により、大学全体としての女性研究者の採用比率、在籍比率に係る所期の目標を達成するとともに、女性教員の上位職への登用を進め、若手女性研究者の研究力を向上させたことは評価できる。他大学との連携による取組に係る好事例の普及も期待できる。

- ・ **目標達成度**：女性教員の在籍比率に係る高い目標を掲げ、ニーズに対応した細やかな支援体制を構築し、女性教員の採用を積極的に進めたことは評価できる。しかしながら、生活環境学部、薬学部における女性教授の採用数等、いずれも所期の目標を達成できておらず、今後一層の取組が必要である。
- ・ **取組**：ニーズ調査を踏まえ、研究支援員の配置、学内保育ルームの開設、関西 5 大学連携事業や研究所と連携したスタートアップ支援等、特徴的な取組は評価できる。アメリカ分校と連携した機関の女性研究者と海外女性研究者との学術交流に係る取組は、若手女性研究者の国際的に認められる研究力の向上に繋がっており、評価できる。
- ・ **取組の成果 (システム改革)**：研究環境整備や意識改革の取組の成果が女性研究者数の増加に繋

がっており、将来的な女性研究者数の増加も期待できる。研究力向上の基盤構築が進み、科学研究費補助金への応募件数の増加、研究業績の向上、共同研究や留学希望者の増加に繋がっており、評価できる。多様なロールモデルの確保の観点からも、公募制による女性教員採用の継続を期待する。

- **実施体制**：学長直属の「女性研究者支援センター」と理事長直属の「男女共同参画推進室」が連携し、全学体制で取組を進めたことは評価できる。さらに、女性研究者支援センター内に国際化支援部門を設け、アメリカ分校との国際交流を推進したことも評価できる。
- **実施期間終了後の取組の継続性・発展性**：「学院創立80周年への5つの戦略的テーマ」に若手女性研究者や女性リーダーの育成を明記しており、実施体制を維持し、運営予算を確保し、取組の継続が図られており、評価できる。さらに、関西圏女子大学連携による共同支援事業も計画されており、今後の取組が期待できる。